

みずほマーケット・トピック(2022 年 10 月 14 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

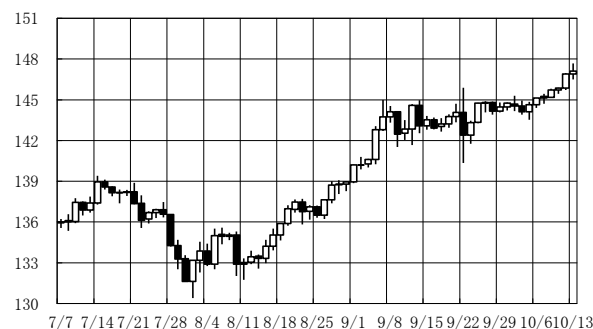
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円は週後半にかけて急上昇、年初来高値を更新した。週初10日、145.45円付近でオープンしたドル/円は週安値の145.25円まで値を下げるも、先週末からのドル買いの動きが継続。東京や米国が休日の中、145円台後半までじり高に推移した。11日、ドル/円は米長期金利が4%を超え、一時的に騰勢を強めたが、終日を通し米金利の動向を見ながら145.70円付近を中心に揉み合い推移となった。12日、前日の高値付近で堅調推移していたドル/円は、ポジション調整の動きが散見されドル買いの流れが継続。海外時間でも、米9月PPIの市場予想を上回る結果や黒田日銀総裁の金融緩和堅持の発言を背景にさらにドル買いが加速、147円手前まで続伸した。13日、ドル/円は146円台後半で小動き後、海外時間では米9月CPIの強い結果を受けて、FRBによる強い金融引き締め継続を織り込む格好で米長期金利が急上昇すると一時147.66円をつけ、年初来高値を更新。その後は日銀の介入警戒感からすぐに1円超急落したが再び147円台前半まで値を戻した。本日のドル/円も147円台前半での取引が継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半に乱高下した。週初10日、0.9735付近でオープンしたユーロ/ドルは0.97台半ばまで上伸も、先週末の米9月雇用統計の結果が材料視されてドル買いが強まり、0.96台後半まで値を下げた。11日、ユーロ/ドルは欧州株の冴えない動きに0.96台後半まで値を崩したが、米金利が下落に転じたことでユーロ買いが強まり0.97台後半まで反発。その後はベイリーBOE総裁の債券安への緊急国債買い入れ措置終了発言に英ポンド売りが加速し、ユーロ/ドルも連れ安となって0.97台前半を上値の重く推移した。12日、ユーロ/ドルは0.97ちょうどを挟んでの方向感に欠ける値動きが継続。一時上値を伸ばす場面も見られたが、その後はFOMC議事要旨のタカ派な内容にドル買い優勢となり0.96台半ばまで下落。売り一巡後は下げ止まり、0.97ちょうど付近まで値を戻した。13日、ユーロ/ドルは強い米9月CPIの結果を受けて、一時週安値の0.9634まで急落も、米金利上昇の一巡と欧州株持ち直しに週高値の0.9806まで急上昇と値動きの荒い展開となった。本日のユーロ/ドルは0.97台後半での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		10/7(Fri)	10/10(Mon)	10/11(Tue)	10/12(Wed)	10/13(Thu)
ドル/円	東京9:00	145.05	145.46	145.69	145.89	146.79
	High	145.44	145.80	145.89	146.98	147.66
	Low	144.55	145.25	145.43	145.61	146.46
	NY 17:00	145.41	145.74	145.87	146.92	147.22
ユーロ/ドル	東京9:00	0.9792	0.9736	0.9712	0.9702	0.9705
	High	0.9817	0.9753	0.9774	0.9735	0.9806
	Low	0.9727	0.9682	0.9670	0.9668	0.9632
	NY 17:00	0.9742	0.9703	0.9706	0.9702	0.9778
ユーロ/円	東京9:00	142.02	141.62	141.40	141.59	142.56
	High	142.21	141.76	142.18	142.61	144.09
	Low	141.16	141.00	141.00	141.35	141.84
	NY 17:00	141.58	141.46	141.60	142.48	143.98
日経平均株価		27,116.11	-	26,401.25	26,396.83	26,237.42
TOPIX		1,906.80	-	1,871.24	1,869.00	1,854.61
NYダウ工業株30種平均		29,296.79	29,202.88	29,239.19	29,210.85	30,038.72
NASDAQ		10,652.41	10,542.10	10,426.19	10,417.10	10,649.15
日本10年債		0.25%	-	0.25%	0.25%	0.25%
米国10年債		3.89%	-	3.94%	3.90%	3.95%
原油価格(WTI)		92.64	91.13	89.35	87.27	89.11
金(NY)		1,709.30	1,675.20	1,686.00	1,677.50	1,677.00

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、本日 14 日(金)に 10 月ミシガン大学消費者マインド(速報)が発表される。9 月の結果は 58.6 と 3 か月連続で改善したが低位推移が続いた。現在の景況感と先行き期待については現在の景況感が改善した一方、先行き期待は 8 月から横ばいの推移となった。ガソリン価格は下落しているが、FRB による強い金融引き締め動きは継続しており、先行きに関するマインドは停滞している。また、1 年先のインフレ期待は 4 月に+5.4%のピークを記録して以降減速しており、9 月は+4.7%となった。しかし、パンデミック前は 2%台の推移であったことを踏まえれば、短期的なインフレ期待は高止まっていると言える。なお、5 年～10 年先のインフレ期待については+2.7%と若干減速し、こちらはパンデミック前の水準に近付きつつある。なお、10 月の結果についてブルームバーグの事前予想ではミシガン大学消費者マインドを 58.8 と見込んでいる。1 年後の期待インフレ率を 4.6%、5 年～10 年先については 2.8%としている。また、中央銀行関連では 19 日(水)にベージュブック(地区連銀報告)が公表予定となっている。
- 本邦では、21 日(金)に 9 月全国 CPI が公表を控える。8 月の生鮮食品を除く総合指数は前年比+2.8%を記録。消費増税の影響を除くと 1991 年 9 月以来、約 31 年ぶりの上昇率となった。水道光熱費や生活用品などをはじめ物価上昇が確認された品目は 7 割を超えた。片や、今週公表された 9 月企業物価指数は前年比+9.7%と過去最高を更新し、1 月以降 9 か月連続で 9%台での推移となっている。企業部門にとってのインフレ圧力は家計部門の数字と比較しても大きく、同時に企業が生産コストの上昇を販売価格に転嫁しきれていないことが示唆される。もっとも、実質賃金水準が直近 5 か月連続で減少している以上、家計部門にとってもインフレは大きな痛手となっている。こうした状況下、消費意欲の改善は進みにくく、供給制約をはじめ外部要因によるインフレがじりじりと進んでいく構図は 9 月も続いているものと考えられる。なお、ブルームバーグの事前予想では 9 月の全国 CPI を前年比+2.9%としている。

	本 邦	海 外
10 月 14 日(金)	_____	・ユーロ圏 8 月貿易収支 ・米 9 月小売売上高 ・米 9 月輸出/輸入物価指数 ・米 10 月ミシガン大学消費者マインド(速報)
17 日(月)	・8 月鉱工業生産(確報)	・米 10 月 NY 連銀製造業景気指数
18 日(火)	_____	・独 10 月 ZEW 景気期待指数 ・米 9 月設備稼働率
19 日(水)	_____	・ユーロ圏 9 月消費者物価指数(確報) ・米 9 月中古住宅販売件数 ・米ベージュブック公表
20 日(木)	・9 月貿易収支	・ユーロ圏 8 月経常収支
21 日(金)	・9 月全国 CPI	・ユーロ圏 10 月消費者信頼感指数(速報)

【当面の主要行事日程(2022 年 10 月～)】

ECB 政策理事会(10 月 27 日、12 月 15 日、2 月 2 日)

日銀金融政策決定会合(10 月 27～28 日、12 月 19～20 日、1 月 17～18 日)

FOMC(11 月 1～2 日、12 月 13～14 日、1 月 31～2 月 1 日)

G20 サミット(11 月 15～16 日)

市場営業部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃を前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか？
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)
2022年9月20日	EUは冬を乗り切れるのか～結局、節電頼み～
2022年9月16日	週末版
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
	円安抑止としての日本版HIAの可能性
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本当にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて
2022年8月26日	週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)
2022年8月24日	水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～
2022年8月23日	パリティ割れと欧州のインフレ動向について
2022年8月22日	顕著になる鎖国政策の副作用
2022年8月19日	週末版
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場
2022年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年7月分)
	本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～
2022年8月15日	独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～
2022年8月12日	週末版
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？
2022年8月5日	週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)
2022年7月29日	週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)
2022年7月27日	IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか？
2022年7月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)
2022年7月20日	ECBは7月+50bp利上げに舵を切るのか
2022年7月19日	パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)
	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でこずるインフレ抑制～)
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版(世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケーブゴートにされる可能性～)
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECBハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グルーピング構想～遂に始まる加盟国の階層化～)
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営
2022年6月17日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年5月分)
	FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～
2022年6月14日	悲惨指数を感じなかった日本人
2022年6月13日	米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来
2022年6月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も示唆～)
2022年6月9日	黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～
2022年6月8日	金利が説明力を持ち始めているか～133円台を受けて～
2022年6月7日	要請経済の継続はトリプル安に～参院選と金融市場～
2022年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～サプライズがあるとすれば～
2022年6月3日	週末版(旅行収支と円相場の需給～制限ありきではインバウンドの影響なし～)
2022年6月2日	変容しつつあるユーロ圏物価情勢の現状と展望
2022年5月31日	31年連続、「世界最大の対外純資産国」の読み方
2022年5月27日	週末版(ドル/円相場と理論的な尺度について～もはや参考にしづらいPPPからの乖離～)
2022年5月26日	ブログで政策修正を図ったECBの真意～その②～
2022年5月25日	ブログで政策修正を図ったECBの真意
2022年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年4月分)
	週末版(円安相場は終わりののか？～先行きは夏場以降の政治次第～)
2022年5月19日	本邦1～3月期GDPを受けて～「成長を諦めた国」～
2022年5月17日	ECB、「行動の夏」が意味するところ
2022年5月16日	円のREERIは変動相場制以前の水準へ
2022年5月13日	週末版
2022年5月12日	米4月CPIと今後の考え方について
2022年5月11日	インバウンド解禁と円安抑制の関係性
2022年5月10日	「資産所得倍増プラン」の危うさ～為替・金利への影響～
2022年5月9日	「中銀の財務健全性」と「通貨の信認」について
2022年5月6日	週末版(FOMCを終えて～「50bps→25bps」のプレーキが重要～)
2022年5月2日	円安を止める3つの処方箋～日銀・原発・インバウンド～
2022年4月28日	週末版